

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502470), 法人名 (医療法人社団高台病院), 事業所名 (グループホームはしどい), 所在地 (札幌市豊平区美園3条8丁目4-5), 自己評価作成日 (令和4年3月14日), 評価結果市町村受理日 (令和4年6月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍が続き、外出や全体での行事の開催が難しい状況のなか、毎月何かしらの行事や催しを開き、入居者の皆様が楽しみを持った生活ができるよう努めている。毎年開催している3大行事(夏祭り、敬老会、クリスマス会)は、コロナ禍の為に規模を縮小し各フロアで開催しているが、毎年何かしら新しい事を取り入れており、コロナ禍以前よりも充実した内容を提供できている。また、暖かい時期は近隣を散歩したり、ホーム前のベンチでおやつやコーヒーを召し上がって過ごして頂くなど、季節感を感じながらゆったりと気分転換ができる時間を作るようにしている。

2か月に1回の身体拘束委員会では現状の確認を都度行い、定期的に不適切なケアについてのアンケートを取りその結果をもとに自分たちのケアの見直し、改善を図り、常に丁寧なケアを目指し取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170502470-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年4月4日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市中心部と千歳を結ぶ国道36号線に程近い交通、買い物に便利な住宅街に位置する。地域とは現在、往來を自肅傾向にあるが、通例では地域密着型サービスとして、地域との協力関係継続を目標に、行事への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で、連携を深めている。職員は開設からの運営理念を基に、利用者が出来るだけ自力で、今までと変わらない生活が出来るよう、サポート・見守りに注力し、支援している。介護計画作成については、個別の生活面の課題、気付きを職員間で出し合い、決めつけず、少数意見も含め検討することで、利用者個々の現状に即した介護計画となるよう努めている。コロナ禍で制限が多い中、感染防止に留意しながら、多様な面会方法の提案・実施、外気浴や室内レクでの体力維持プログラムの充実等、出来る事から取り組み、コロナを理由に閉じこもる事のないよう、支援している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をフロア内の目につく所に掲示し共有している。理念に繋がる月間目標を決め、実践に向けて努めているが不十分な部分もある。	職員は定期的に理念について学ぶことで、日常的に共有している。また、理念からの月間目標を掲げ、その達成度について会議の場で検証、協議している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為できていない。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、事業所の近況の周知等、関係維持について、職員間で協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて取り組みや活動内容などを報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、ホームで開催はしていないが、書面を送付し取り組み状況等を報告し意見をもらいサービス向上に活かしている。	通例では、家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。運営状況や現状の問題点が論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。現在は相互の自粛により、書面での開催となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密に取っているとは言えないが、必要時には指導、助言等頂いている。	行政の窓口とは、定例の運営状況報告の他、メール・電話での相談や集団指導の場で、随時助言・アドバイスを受けており、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて	年2回の内部研修や3か月に1回の身体拘束委員会を通じ、身体拘束についての理解を深めている。拘束や虐待の芽になる不適切ケアについても話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は不審者対策の為、夜間・1Fに職員がいない場合のみ、限定して家族の同意を得て行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と定期的に研修の機会を設け、禁止となる具体的な行為等について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会を持ち、虐待の芽になる不適切なケアについてもアンケートを取り、自分たちのケアの見直しを行い、虐待の前の段階から芽を摘めるよう取り組んでいる。また対応について気になる点などあれば意見を挙げ、検討・注意喚起している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学ぶ機会を持っているが、十分な理解まではできておらず、一部の職員以外は活用の場面があまりない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には丁寧に説明を行い、不安な点や疑問点等があれば都度お聞きし、理解・納得を得てから行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画更新時に担当者会議を書面にて開催し、ご要望をお聞きしている。電話の機会があればその際に意見や要望を伺い運営に反映させている。家族へのアンケートを実施予定。日常の会話の中で利用者から意見や要望があれば都度検討している。	本人・家族が意見・要望を話しやすい関係作りを心掛けている。感染防止に留意・工夫しながら、面会も弾力的に再開しており、コロナ禍であっても自由に話せる環境作りにも努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の中で意見や提案を聞く機会を設け、それを運営に反映させている。個別の定期面談を実施している。	年に一度、人事考課として職員は自己評価に取り組んでおり、目標の達成度について、個別面談で話し合っている。また、管理者は日常業務や会議での提案、意見交換から職員意見を聞き取り、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、人事考課・それに対するフィードバックを実施し昇給を行うなど、職場環境の改善に努めている。人員も安定しており以前より改善されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修の受講ができない為、ホーム内で受けられるオンラインの研修を取り入れ色々なテーマの研修が受けられるようにしているが、今後もっと活用し勉強の機会を増やしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為全くできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が気軽に遠慮なく要望等を話してらえるようこまめに声掛けを行い、不安な事や要望等は職員間で共有し、本人とも相談しながら都度検討するなどして関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めにご家族の不安な事や要望等をお聞きし、入居後は特に何かあれば都度連絡・相談をこまめに行い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族からの聞き取りに加え、事前の情報などをもとに「その時」必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、できない事を見極め、本人の思いを伺いながら自立支援を心掛けたケアを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会に制限がある為、電話やお手紙等で近況を報告しながら情報を共有し、ご家族の要望や思いを都度伺いながら支援し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会や外出の制限があり、馴染みの方との直接の対面や馴染みの場所への支援は難しい状況にあるが、手紙やテレビ電話での面会等で関係が途切れないよう支援に努めている。	通例では、馴染み、希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、支援している。コロナ禍の現在は電話連絡の頻度を上げ、お便りの個別化、内容充実に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を考慮しながら、レクリエーションやお手伝いなど、普段の生活の中で関わり合う機会を作り、お互いが支え合える支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後はほぼ関わりがない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が思いや意向を話しやすい雰囲気作りに努め、普段の会話や表情などから汲み取り、申し送りや支援経過記録等で共有しながら把握に努めている。	終末期を含め、本人からどのように過ごしたいのか、生活についての具体的な希望・意向の聞き取りに努めている。また、全職員からの利用者個別の情報を集約し、プラン作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境や、どのように暮らしてきたかを、本人やご家族に聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや生活記録、支援経過記録を活用し、何か変化があれば職員間で共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式をもとに、ご本人や家族の意向、現在の生活状況、各職員の意見等を総合的に取り入れながら、個々の現状に合った介護計画を作成している。	本人、家族の希望を取り入れ、日々の生活状況を把握し、職員会議、サービス担当者会議で検討し、作成している。変化があれば、都度見直し、現状に則した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を基本として、普段と変わった様子や重要な事項等があれば支援経過記録や変化発見レポートなどに記録をし、それをケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望にはできるだけ添えるよう都度検討し、柔軟な対応ができるよう努めている。コロナ禍でなかなかご家族に会えない為、ビデオ通話での面会や、メールやSNSでの写真の送信などを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為ほぼ活用できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である高台病院の往診や、歯科往診、他それぞれ希望のかかりつけ医に受診できるよう支援している。	本人、家族の要望を聞き取り、かかりつけ医とのつながりを大切に支援している。母体医療法人の医師による診療、看護師との医療協力体制があり、利用者の健康状態を職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段より何か変化や気づいた事等があれば小さな事でも随時報告・相談をし、指示や助言を受け、状況に応じた適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネージャーや看護師が中心となって情報共有や連絡調整等を行ない、安心した治療を受けられるよう、また、早期退院ができるよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化対応に関する指針について説明し、重度化した際のおおまかな希望を伺っている。実際に重度化が近づいた場合にはホームでできる事とできない事を説明し、都度家族と相談をしながら意向に沿えるよう支援に努めている。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	動画研修やマニュアル、資料等で学ぶ機会を持つてはいるが、実践的な訓練はできておらず、実践力は不足している。現状は都度看護師の指示のもとに対応している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施しているが、コロナ禍の為、地域の方の協力を得た訓練ができておらず、実際の災害時には不安がある。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域住民や母体病院とは、定期的に相互の協力体制や役割を確認して、不意の災害に備えている。	現在、法人として取り組んでいるBCP(事業継続計画)作成に併せ、家族、関係者への定期的な避難場所の周知等、進展に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声掛けや対応を心掛けている。不適切ケアについて学び、自分達の対応について見直す機会を持っている。対応に関して不足している点があれば、フロアミーティングや申し送り等で全員に注意喚起している。	職員はプライバシーへの配慮、接遇や言葉使い、望ましいケアについて定期的に見直し、協議している。不適切と思われる対応については都度、相互に注意し合い、改善に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を気兼ねなく表せられるよう、本人と職員が良い関係が保てるように努めている。表現が難しい方には質問の方法を変えたり、理解しやすい言葉を使うなどしてなるべく自己決定できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り希望に沿って支援しているが、状況によって職員や他入居者の都合に合わせて頂く場面もあるが、その際は理由を説明するなどし、一方的な支援にならないように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は基本ご自分で自由に選んで頂いている。支援が必要な方には本人にどれを着たいかなど伺うようにしている。理美容は本人の希望に沿って実施して頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューを取り入れたり、デリバリーを利用して普段食べられないメニューを提供したり、畑で収穫した野菜をその日に調理して提供するなど、食事が楽しみになるように努めている。毎日片付けを一緒にやっている。	季節感、盛り付けに配慮し、彩りあるものとなっている。調理の過程や下膳等、好きなお手伝いをお願いしたり、出前で外食気分を味わう等、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	温度版やケアチェック表を利用して、個々の食事量や水分量を把握し職員で共有しそれぞれに合った支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアの支援を行い、必要時は歯科往診でケアをしたり、無料検診を受けて頂くなどして状態の把握に努めている。人によっては口腔内の状態をあまり把握できていない方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアチェック表を使用し、1人1人の排泄パターンの把握に努めている。声掛けや誘導が必要な方には間隔や表情を見ながら失敗がないよう取り組むなど、それぞれに合った排泄支援を行っている。下剤の量や時間など都度Nsと相談・検討し便秘予防にも努めている。	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。排泄時の自尊心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーション等で1日1回は体を動かす機会を作り、排便状況を見ながら水分摂取量の調整や下剤の調整などを行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間の希望があれば添えるよう対応している。入浴間隔にこだわらず必要時には入浴できるよう努めている。行事や受診時など状況によっては合わせて頂く場面もあるが、その際は必ず理由を説明し同意して頂いている。	毎日お湯はりを行い、出来る限り利用者の希望に沿えるようにしている。拒否のある場合も、利用者の気持ちに寄り添いながら、心地よく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や共有部分のソファなど、それぞれが自由に休息できるよう支援している。就寝薬の調整や日中の活動の声掛けなど、十分な睡眠がとれるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬について目的や副作用を理解できてはいないが、薬情ファイルですぐ確認できるようにしている。新たな処方がある場合は、都度看護師から副作用や注意事項等の情報をお知らせし、全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事や、趣味などをアセスメントし、それぞれが能力を活かせるようレクリエーションや趣味活動の支援を行っている。コロナ禍の為、外出行事ができておらず、気分転換の支援についてはやや不足している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出はほぼできておらず、近隣の散歩や玄関先での外気浴に留めている。一人一人の希望全てには沿う事は難しいが、散歩等の希望があればなるべく対応できるよう努めている。	外出行事は自粛しているが、気候の良い時期は周辺の散歩をしている。室内でのレクに運動を取り入れ、気分転換や筋力低下防止に努めており、コロナ禍での制限・影響が最小限となるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本現金は事務所での管理となっているが、希望があれば相談の上対応している。コロナ禍の為、買い物等もなく実際にお金を使用する場面があまりないが、職員や家族が買い物を代行し、希望があれば使用はできている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りなど、希望があれば都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節の装飾や写真などを飾り、季節ごとにこまめに変更し季節感を感じられるように配慮している。感染対策として空気清浄機を使用し、換気や湿度にも注意して対応している。	利用者が好きな場所で過ごし、それを見守ることで、自宅のような居心地のよい環境を作り出している。リビングの飾りは、入居者の作品や、季節感に配慮されたものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は自由に過ごせるようになっており、入居者同士の関係性を考慮しながらソファの席や食卓の席の場所など、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や置物、ぬいぐるみや写真など、本人の好みの物や馴染みの物を自由に置いて頂き、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態に変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室、ソファ席や食卓席など迷ったり混乱されないように名前を付けるなど工夫している。		